



たとえばここに 飾るとして

作品を”飾る”ことから、現代美術と日常生活の関係性を問い直す。
新進気鋭の若手ユニット”棒立ち”が、滋賀県米原市で展覧会を開催。



作家プロフィール

Press Release 2/7

●棒立ち (ぼうだち)

2015年、バンドとして結成。「僕らも棒立ち、観客も棒立ち」をコンセプトにライブパフォーマンスを行う。主な発表に2017年「棒立ちのオペラ」(ロームシアター京都広場/京都)、「棒立ちのライブ」(ゼスト御池/京都)、主な展示に2018年「棒立ちのアーカイブ」(京都市立芸術大学/京都)などがある。



2017「棒立ちのライブ」
(ゼスト御池/京都)



2017「棒立ちのライブ」(ゼスト御池/京都)



2017「棒立ちのオペラ」(ロームシアター京都広場/京都)

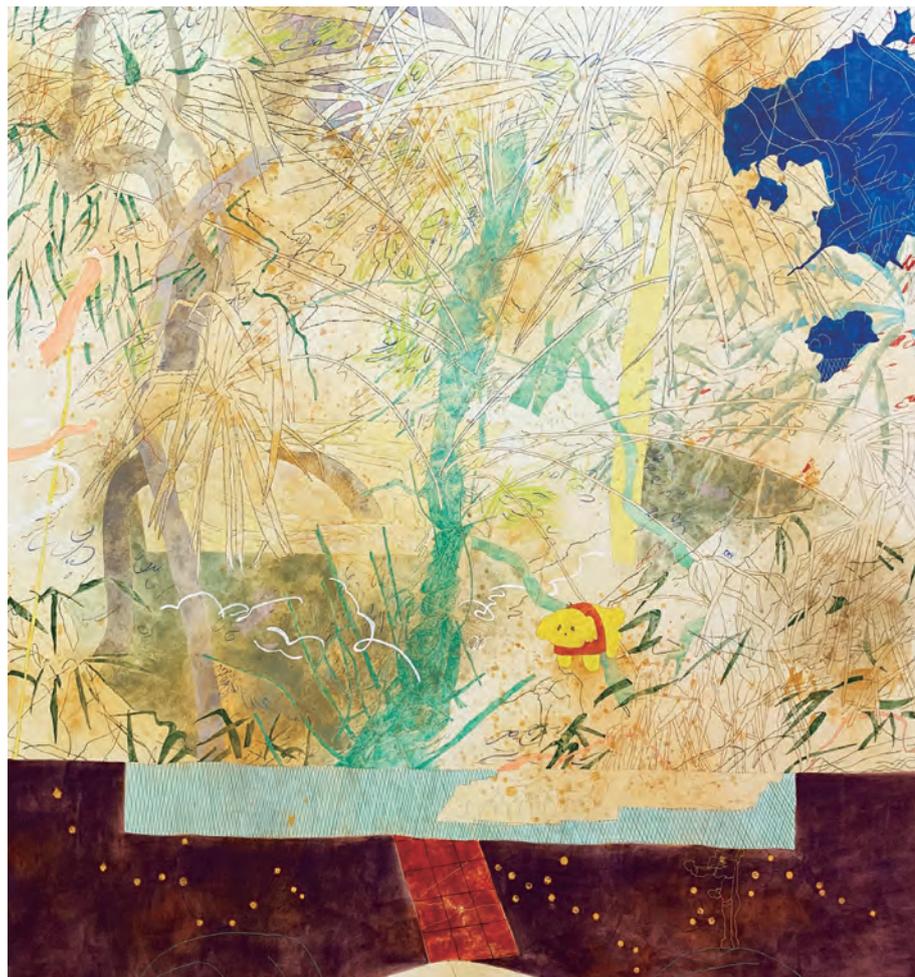
●大槻拓矢 (おおつき・たくや)

1989年奈良県生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画領域日本画在籍。主な展示に2018年「Prologue IX」(GALLERY ART POINT、東京)、「第4回石本正日本画大賞展」(石正美術館、島根)など。主な受賞歴に2017年「シェル美術賞2017」入選、2018年「ワンダーシード2018」入選、「臥龍桜日本画大賞展」入選、2019年「第37回上野の森美術館大賞展」入選(賞候補)など。

作家ステートメント

風景を写生し、そこから得た山や木や犬の形を借りて、画面に配置する。そこに何らかの状況が発生するのかあるいはしないのか、眺めている。(どちらでもいい)

画面の内側だけに構築された世界は単なる絵でしかない。けれど不確かで仮構的であるという点で、目に見えるものとあまり変わらないように思う。そうした不完全さや、世界を認識する仕草について、身近なものに助けられながら考えている。



実は確乎じゃない
紙本着色 / 2019
H162.0 W162.0 D3.8



(左)
シェフレラ
色鉛筆 / 2018
H35.2 W25.1 D0.1



(右)
好きに委ねる
紙本着色 / 2018
H60.0 W72.0 D3.8

●岡本 秀 (おかもと・しゅう)

1995年奈良県生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画領域日本画在籍。主なグループ展に2019年「暗黙知の技術 (Fab cafe, MTRL Kyoto/ 京都)」、個展に2017年「ひそひそ彫刻のむくい (Art Spot Korin/ 京都)」、主な受賞歴に2018年「シェル美術賞2018」入選、「臥龍桜日本画大賞展」入選、「はるひ絵画トリエンナーレ」優秀賞、「京都市立芸術大学作品展2017」市長賞。また、同人誌への寄稿として『アラン・セクーラ『モダニズムを解体し、ドキュメンタリーを再創案する』(パンのパン03〜たくさんの写真についての論特集号〜)』、マンガ冊子『おぼけの連判状』の発刊にも参加している。

作家ステイトメント

主に、絵画やマンガなどの平面イメージを媒材として制作する。絵画においては日本絵画の技材を用い、現代の視覚メディアから古典絵画の表象イメージまで、「画像」を扱うことに通底する空間の奥行きについて検討する。その一方、展覧会企画者や恋人との関係性など、個人的で卑近な出来事における危機の状況を取材し、マンガやインスタレーションといった視覚表象によって客観化することで、限界状況に際した時のあたたかい実存の方法を探るような活動も行っている。



こんばんは
紙本着色 /2018
H227.0 W181.0 D5.0



(左)
説明 (進歩しないね)
シナベニヤ、紙本着色 /2019
H65.0 W35.0 D3.0



(右)
長安のお墓の絵の絵
紙本着色 /2019
H162.0 W115.0 D5.0

●北浦雄大(きたうらゆうだい)

1994年奈良生まれ滋賀育ち。2019年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科工芸領域漆工科在籍。

主な展示に2019年「ことだま - 浮上と継続 -(舂居ギャラリー / 京都)」、「Scenes2019」(GALLERY ART POINT、東京)、2018年「輪島漆芸美術館・漆芸の未来を拓く - 生新の時2018」(輪島漆芸美術館 / 石川県)、「アジア漆工交流プログラム in カンボジア」(Angkor Artwork/ カンボジア)、池袋アートギャザリング SELECTION 展 (東京芸術劇場 / 東京)、2017年「会津まちなかアートプロジェクト会津漆の芸術祭」(末廣酒造 / 福島県) 出展。受賞に2018年「京都市立芸術大学卒業作品展」市長賞、2018年「池袋アートギャザリング」奨励賞、2017年「京都市立芸術大学作品展」平館賞、「国際瀧富士美術賞」優秀賞など。

作家ステイトメント

主に漆を扱った作品を制作している。

漆は縄文時代より扱われてきた素材で、土器や櫛、祭祀具など精神生活を支えるものに施されてきた。この精神は、簡単に目の前で起こることのみを答えとするのではない。爬虫類の脱皮や、月の満ち欠けなどの現象から、輪廻を感じ取り、造詣に落とし込む。それらは超越的知識で世界を察知するものである。

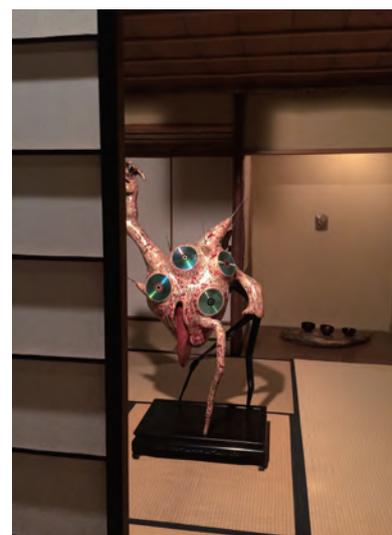
この精神を懐きながら今日と対峙し、漆と作品について考える。



響動き (どよめき)
乾漆技法 変わり塗り トンサビ
漆 螺鈿 鶏卵 箔 /2016
H125.0 W80.0 D60.0



(右上)
畏怖の現れ
脱乾漆技法 変わり塗り 樹脂
/2018
H500.0 W400.0 D200.0



(右下)
五蘊盛苦 (ごうんじょうく)
脱乾漆技法 変わり塗り CD ロッドア
ンテナ 乾漆粉 樹脂 /2017
H130.0 W80.0 D60.0

たとえばここに飾るとして What if ,you would to deploy it here...

大槻拓矢、岡本秀、北浦雄大の三人から成るグループ「棒立ち」が、“飾る”をコンセプトに滋賀県米原市醒井(さめがい)で展覧会を行う。

本展の中心となる“飾る”という行為は、「ものを場に配置する」という動作からなり、日常的に誰もが行うものである。その行為はおよそどのような場でも出来る一方で、飾られるものの位置は、その場の持つ要素によりある程度規定される。

梁や柱に掛けたり棚に置いたり、あるいは置物の隣に並べたりと、飾られるものはそれが何であれ、既に場に存在するものに付加するかたちで置かれる。そうして飾られたものは、飾られている場に徐々に馴染んでいき、それ自身もまた、場を形作るいくつかの要素のうちのひとつとなる。“飾る”という行為において、主体は飾られている場の方なのだ。

それは作品を最もよく見える状態にしたり、あるいは空間そのものを作品化するような意味での“展示する”という行為とは異なる。“飾る”という行為において作品は特権化されることなく、場に寄り添うことで日常の中に入り込む。ただそこにあって然るべきものになっていく。

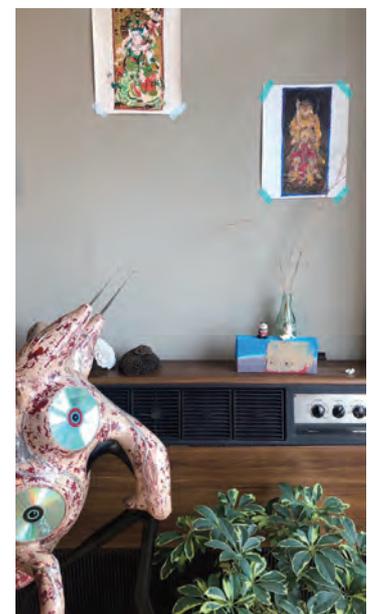
これまで「棒立ち」は、開催地となる場に起因したパフォーマンスや作品展示を行ってきた。初めからそこにあった要素との関わりの中で、行為や設置物の意味が決定されていく。

このことはまた、本展における大槻、岡本、北浦の作品においても同様である。大槻と岡本は日本画、北浦は漆工を主な表現媒体としているが、それぞれの作品は、飾られている場からの影響によって見え方が変貌しても構わないもの、場との相関関係において意味性を獲得するものとして扱われている。

開催地となる醒井は中山道の宿場町で、江戸時代以前から多くの人が行き交い賑わった場である。家の前に並べられたプランター、道沿いの看板、ショーウィンドウに鎮座する人形、石碑や看板など、醒井は“飾る”という営為に溢れている。

本展では、このように何気なく行なわれている、ものを“飾る”行為を、現在の美術が行なっている“展示”行為とは全く違った形で、作品(もの)と場の両方を魅力的に展開していく手法として位置付ける。それにより、美術と、人々が何気なく行なっていることとを接続しようとするものである。

作品と場の関わり方を再考する私たちの試みを、是非ご覧頂きたい。



本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名：たとえばここに飾るとして
アーティスト：棒立ち（大槻拓矢 岡本秀 北浦雄大）
会期：2019年9月23日（月）～10月6日（日）
会場：米原市醒井宿資料館

□旧醒井郵便局局舎（国登録有形文化財）
〒521-0035 滋賀県米原市醒井592



□旧醒井宿問屋場（市指定文化財）
〒521-0035 滋賀県米原市醒井123



tel：0749-54-2163 月曜日休館（※月曜日が休日の場合は、翌日休館）9:00～17:00（入館16:30まで）
入館料：大人200円（20人以上の団体料金160円）小中学生100円（20人以上の団体料金80円）
<https://www.shigabunka.net/archives/192>

会期中イベント：棒立ちのライブツアー

9月29日（日）14:00～15:00，10月6日（日）14:00～15:00

イベント概要：展示作品とともに、醒井の街並みを散策しながら、本展のテーマとなる”飾る”ことについてのツアーライブを行います。雨天の場合は、旧醒井宿問屋場にて醒井の街並みのチェキを元にツアーパフォーマンスを行います。

主催：醒井区 米原市教育委員会

企画：大槻拓矢、岡本秀、北浦雄大（棒立ち）、畑中英二（京都市立芸術大学 総合芸術学科 教授）

[お問い合わせ]

棒立ち：岡本 秀（おかもと・しゅう） bodachi.bodachi2015@gmail.com

[交通アクセス]

公共交通機関をご利用の場合

JR醒ヶ井駅から徒歩約5分

（醒ヶ井駅まで：京都駅から東海道本線で米原駅まで行き、大垣方面に乗り換え。米原から各駅停車で一駅。）

車でお越しの場合

北陸自動車道米原ICより国道21号線を開ヶ原方面へ車で約5分

駐車場：市営醒ヶ井駅前駐車場（有料駐車場）

普通車：46台 営業時間：24時間

料金：入庫後30分まで無料、30分を超え2時間まで200円